

## 分科会のまとめ 中学校 総合

授業者	海田中学校 2年 佐伯 真実子
指導助言者	広島大学大学院教育学研究科 客員教授 朝倉 淳 様
司会者	海田中学校 松村 健
記録者	海田中学校 沖中 悠紀

### 1 協議内容 (○成果・●課題)

#### ① 児童生徒の主体的に学ぼうとする姿が見られたか

○海田町への貢献を3年間の総合的な学習の時間の目的とし、1年時は「海田町での観光」をテーマにすすめてきた。2年時は海田町以外の地域の情報を得て、貢献にあり方を観光だけでなく、町づくりなどに移行させていくことを目標にすすめている。大きな目的に向けて、生徒が町づくりに着目して、意見を交流している点については、主体的な学びが見られた。

●上述の成果がある一方、3年間という長いスパンで目的を達成していくことを目指しているのに、町づくりについて意見を出し合うことが、海田町への貢献にどのようなつながるのかを疑問に思っている生徒もいた。

#### ② 児童生徒が自分の考えを深めるための指導の工夫がされていたか

○個人思考した後、グループでの思考場面が充実していた。また、指導者の切り返しがよく、具体性を求めているところが生徒の思考に好影響を及ぼしていた。

●意見を出し合う場面で、なかなか交流が進まないグループもあったので、指導者がコーチングしていく必要がある場面も見られた。

#### ③ 児童生徒が安心して学習できる環境づくりや人間関係づくりはどうであったか

○生徒は先生が笑顔で肯定的な評価をしていたので安心してできていた。

●ただし発表が生徒から先生に向けてだったので生徒同士で意見が言い合えればよりよい人間関係につながると思った。



[授業の様子]



[分科会の様子]

## 2 指導・助言

- 生徒が安心して授業を受けていたので良かったと感じた。総合の時間がどのようになっているかについて、まずは柱文があり、そこに1から3がついている。文言は今までと違うが総合が変わったということはない。見方や考え方としては各教科における見方・考え方を総合的に活用していたので総合らしい総合になっていた。
- 今まで海田町で育ってきた、学んだことが活用できていた。町というコミュニティーや海田町、市を色々な角度から見られていた。また生活につながっていたのが非常によかった。ゴール地点も生活につながりがあるので良かった。目的があり実現していく総合のなかでプロセスがあり、その中で子どもが出会い、解決できるのが問題解決学習になる。ただし問題があっても1人で解決することは難しいのでやはり協働的な学びになっていく。
- 探求的な学びの課程において課題に関わる概念を形成するとあるが、この言葉は強調のために使っているものである。小さい知識を結びつけて大きな知を構成することが総合の概念というものである。個別がバラバラなものではなく、形成されたものが概念であること。総合の時間を通してストーリーから学び、ストーリーを創る。こういった生徒になってほしいと感じる。子どもは未来に生きている。上手くいかないことに諦めているようではこれからの社会を生きていくのは難しい。そこが教育の課題でもある。
- ノーベル賞を取った本庶先生も受賞までにプロセスがあった。皆のために、役に立ちたいという個人の意思が一つのストーリーになっている。総合のカリキュラム・マネジメントとして最初からある計画的なカリキュラムの通りに進むことは限り無く難しい。そこで計画は現実に合わせて修正する必要がある。その課程で案をメモとして残すことが必要である。
- 授業を主体的にするのに必要なものは必然性である。必然性がある状態というのは、「何のために何をするか」がはっきりしている時である。何のためにと言うのは目的であり、想いや願いである。これがはっきりしていればストーリーになる。総合はストーリー作りが特に大切であるため、近い目標でもあり、遠い目標でもある子ども議会の提案はとても良いと感じた。それが海田というリアルな場につながるので、ストーリーがより明確になり、明確になればなるほど主体的になり、協働的が重要な役目をはたす。
- 本単元をより良くするためには、子ども議会に提出する案をつくることで、疑問をもたせるとよい。案は何度も振り返り加筆修正していく。そのプロセスで研修として他地域から学ぶことはないのか、考えることで必然性が産まれる。考えを深めるということは主題の設定の中にもあるが、自分の考えがあるということが前提としてある。
- 問いがないと考えることが難しい。問いは疑問から出てくるもの、つまりプロセスの中で出てきた疑問が問いになる。疑問に対して他の視点を持つことで問いに対する新しい視点や角度を自分で持つことができる。例えば京都の課題は何かを考えることで、今までの自分の視点や角度を超え、思考力を伸ばしていく。そのために、問いは具体的でピンポイントな確認が重要である。